

【山口県】土地改良を契機とした農村地域の振興事例集

市町村	地区名等	タイトル	頁	発行月	Vol.
阿武郡阿武町、萩市	山口北部	集落を跨ぐ一団地一農場法人と女性の活躍	1	H28.06	1
山口市	二島西	生涯現役！人と技術で地域を守る次世代農業	2	H31.03	5
山口市	川西	ほ場整備による大規模営農と雇用の拡大	3	R4.03	8
防府市	下律令	ほ場整備を契機とした集落営農法人の営農展開	4	R5.03	9
山口県		やまぐち農業農村DXの推進	5	R7.03	11

【工夫のポイント】

- 担い手となる法人に農地の利用集積を図ることで、**複数の集落にまたがる農地を一括管理する“一団地一農場方式”を構築**し、大型機械化体系を実現。
- **4集落の女性が共に活動するサークル(四つ葉サークル)を組織**し、地場産大豆を使った豆腐の製造などの6次産業化にも取り組む。

【取組地域の概要】

- 位置 あぶぐんあぶちよう はぎし
山口県阿武郡阿武町、萩市
(特定農山村等)



- 主要作物
・水稻、大豆、トマト、はくさい 等
- 主な支援施策
・国営農地再編整備事業(H4～H12)
・多面的機能支払交付金(H19～)
・中山間地域等直接支払交付金(H12～)
・環境保全型農業直接支払交付金(H24～)
・県営緊急生産調整対策推進事業(H24)

基盤

排水不良田の汎用化による高収益作物の導入

水田の汎用化等の整備を実施し、大型機械の導入及び高収益作物の導入を推進。



基盤整備
(H4年～H12年)

【整備前】

昭和初期に簡易な区画整理を行っているものの、**全域が湖成堆積物からなる強湿田地帯であり、排水性が悪い**ことから、畑作物の栽培が困難な状況であった。



生産現場

水田の汎用化等による高収益作物の導入

- 水田の汎用化等の整備により、トマト等の**高収益な畑作物の導入**および大型機械化体系を実現。
- 乾田化した水田において「**水田+大豆**」の**ブロックローテーション**による効率的作業を実現。

加工・流通

女性の力を活かした6次産業化の推進

- 4集落の**女性が共に活動**を始め、**生産、加工、環境、交流**の4つの活動を柱としたサークル(四つ葉サークル)を設立。



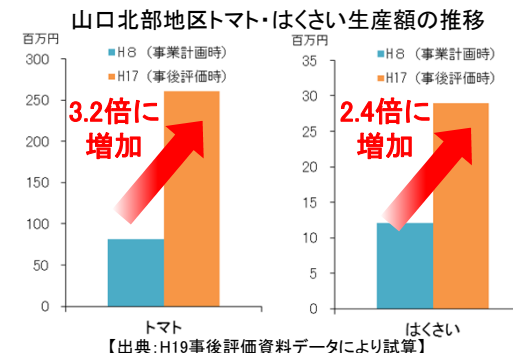
担い手

集落の話合いに基づく法人組織の設立

- ほ場整備をきっかけに、**地区再生に向けた地域の話合い**を重ね、4集落の農地を一括管理する「一団地一農場方式」を導入。
(担い手:農業組合法人「うもれ木の郷」設立)

「一団地一農場方式」や大型機械化体系導入による農業生産額の増加

- 事業を契機として「一団地一農場方式」による法人への農地利用の集積と、大型機械導入による効率的な生産体系を確立することで**コストを縮減し、収益性の高い作物の生産**を実現。また、女性の力を活かした6次産業化の推進など、地域の活性化にも貢献。



【工夫のポイント】

- ほ場整備の実施により、法人を中心とした担い手に農地を集積・集約。
- スマート農業技術の導入により、農業生産の省力化、安定した収量・品質の確保。
- 加えて、障がい者施設と連携し、雇用を確保（農福連携）。

【取組地域の概要】

- 位置 やまぐちし
山口県山口市（過疎、特農、山村）

ふたじまにし
二島西地区

山口県

- 主要作物
・水稲、麦、大豆、飼料作物、
キャベツ、タマネギ、ニンジン 等

- 主な支援施策
・農業生産法人等育成緊急整備事業
・農業競争力強化基盤整備事業（経営体育成型）

(H19～H31)

基盤

大区画化・水田高機能化による労力軽減と高収益作物の導入

基盤整備により、大型機械を導入し生産コストの低減を図るとともに、水田の高機能化により高収益作物の導入を実現。



大区画化されたほ場（整備後）



大型機械による収穫状況

基盤整備
(H19年～H31年)

【整備前】

干拓地域の整形田であるが狭小なほ場であり、排水性が悪く、畑作物の作付けに支障が生じている。



狭小なほ場（整備前）

生産現場

高収益作物への転換とスマート農業技術の導入

- キャベツ等の高収益作物に取り組み、土地利用率150%を達成。
- 食味収量センサー付きコンバインを導入し、ほ場毎の収量・食味等のデータを経営・栽培管理システムに送り、生産状況の見える化を推進。



担い手

地域を支える担い手法人の設立

- ほ場整備を契機に農事組合法人「二島西」を設立（組合員数146名、経営面積135ha（H31.2））。

地域の取組

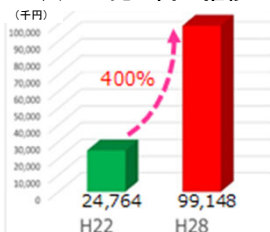
障がい者施設との連携（農福連携）

- 障がい者の自立と併せ、農繁期の労働力不足解消のため、キャベツ等の収穫補助作業を障がい者施設に委託。

農業の競争力強化と農福連携による新たな地域作り

- 畑作物（キャベツ、麦等）の生産拡大により、法人の農業売上高が増加（約4倍！）。
- 食味収量センサーにより、収穫と同時に収量・タンパク含有率・水分率をほ場毎に情報整理。情報の分析により、農作業時期や施肥量等を見直し、コスト縮減と品質の向上を図る。

<法人の売上高の推移>



<凡例>

単収	タンパク含量
300kg/10a以上	12%以上
300kg/10a未満	12%未満



- 障がい者施設と連携し、障がい者の適性を生かしつつ、労働力を確保。
(H30: 延べ3,643人/年)



障がい者による収穫作業

【対策のポイント】

- 営農効率の良い大区画ほ場が整備され、**担い手への農地集積と大型機械・省力化機械の導入**を推進。
- 排水機場やパイプライン等の用排水施設の整備により、氾濫や湿田の解消と配水効率化による**高収益作物の生産拡大**。
- JA出資法人による大規模なハウス団地を建設し、**県内最大規模のイチゴ栽培**に取り組む。

【取組地域の概要】

○位置 やまぐちし
山口県山口市



- 事業名
農業競争力強化農地整備事業 (H18～H30)
- 主要作物
米、麦、大豆、イチゴ、タマネギ、キャベツ等
- 受益面積 144.7ha
- 主要工事
区画整理: 144.7ha(暗渠排水を含む)
排水対策: 排水機場1箇所、排水路1式

区画整理及び排水施設の整備

- 整備前の農地は低平地で**排水性が悪く、道路が狭小で用水路は土水路**であるため、園芸栽培に不利な条件。
- 水稻作が主体だったが、ほ場の大区画化と暗渠排水、排水機場の整備により、**高収益作物への転換が可能に**。



基盤整備
(H18～H30)



若年就業者の活躍

- 集落営農法人では平成27年から**農業大学の卒業生を社員**として雇用し、現在**3名が活躍中**。
- イチゴ生産法人では**17名の新規雇用**(若年人材の雇用を図り、**社員の平均年齢は30代前半**)。



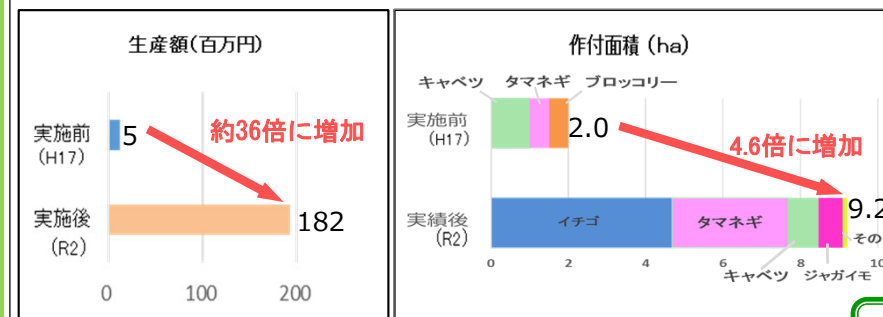
対策の効果

高収益作物の作付け拡大

- ほ場の大区画化、用排水施設の整備により**担い手への農地集積の拡大と高収益作物の生産強化**。
- 営農条件の向上により、**高収益作物を生産する新たな法人が参画**。



高収益作物の拡大



【工夫のポイント】

- 大区画化、汎用化により、営農効率の良いほ場が整備され、**担い手への農地集積・集約化を促進**。
- 事業を契機に、担い手となる**農事組合法人**を設立。（平成25年）
- 米や小麦といった土地利用型作物と併せて、**たまねぎやキャベツなどの高収益作物を導入し、多様な作物生産による収益性の向上を実現**。

【取組地域の概要】

- 位置 ほうふし
山口県防府市

山口県



しもつりょう
下津令地区

- 主要作物
・水稻、小麦、たまねぎ、キャベツ 等
- 主な支援施策
・農業競争力強化農地整備事業（H23～R3）
・多面的機能支払交付金（H19～）

基盤

ほ場整備による営農の効率化

区画整理による基盤の嵩上げ、用排水路の分離、地下水位制御システムの導入、用水のパイプライン化等により、**ほ場の排水性の改良や農作業の効率化**が図られ、法人による**畑作物の生産が拡大**。



高収益作物栽培（キャベツ）



地下水位制御システム

基盤整備
（H23年～R3年）

【整備前】

不整形で狭小な農地であり、地区北側の河川は水位が高く、**洪水時の排水が困難**になることから、**水稻主体の個別営農**。



降雨時湛水状況（整備前）



整備前全景

生産現場

農事組合法人による営農体系の確立

- 地域の豊かな農業を守っていくため「**農事組合法人下津領**」を設立。
- 水稻主体の営農から、**小麦、たまねぎ、キャベツ等の作物の栽培へ転換**。
- キャベツの生産は、**女性理事**が担っており、調整作業等では地域へ貢献するために**地元の方を雇用**。



タマネギ収穫



キャベツの出荷調整

地域の取組

集落営農法人連合体の設立

- 集落営農法人の構成員の高齢化等に対応し、地域農業の持続的発展を目指すため、防府市大道地域の3集落営農法人と認定農業者が共同出資して**株式会社（集落営農法人連合体）**を設立。
- 連合体では、ドローンを活用した農薬散布や資材の共同購入、機械共同利用による**各法人のコスト縮減**や、**人材育成へ取り組む**。



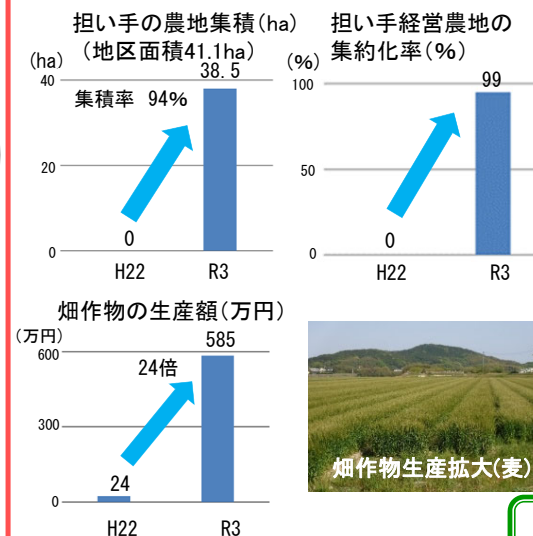
ドローンによる農薬散布



共同利用機械（麦播種）

区画整理による農地集積と畑作物の生産拡大

- ほ場整備と、それを契機に設立された集落営農法人による営農を進めることで、**担い手への農地集積・集約化の促進**や**畑作物の生産額向上**が図られた。



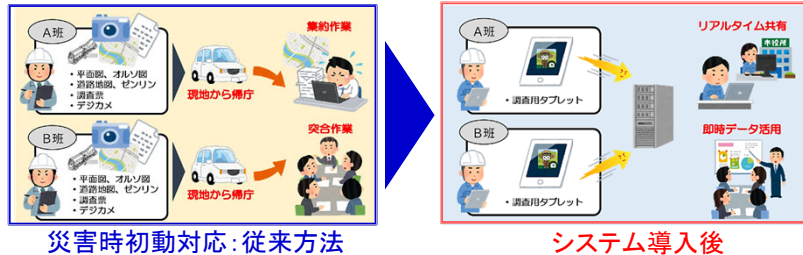
農家や行政が抱える課題解決に向けて

【取組前】

- 市町等のマンパワー不足による災害時の初動対応に遅れ。
- 紙媒体による作業の煩雑さに加え、データの蓄積・活用に苦慮。
- 維持管理や保全活動、対策工事等の連動性に課題。

【取組後】

- 農家や市町等と連携した災害時の初動体制を確保。
- アプリとデータベースによる情報取得と活用の仕組みを構築。
- 保全から対策までの取組を一元化して共有。



迅速で着実な調査や情報共有を実現！

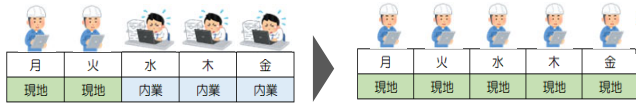
- ①現地からの的確かつ瞬時の情報共有が可能に。



1hr→瞬時

※現地往復1時間の場合

- ②災害時の迅速な被害調査や情報伝達・共有を実現。



2倍程度

※現地での作業進度

現地2日+内業3日 ⇒ 現地5日 ※内業が不要

- ③ため池管理者への迅速な管理指導を実施。

※自動集計

点検票の突合・集約5日⇒1日



5日→1日

リアルタイムで情報伝達や共有が可能となるシステムの構築

Action 1

メンテナンスサイクルの実現に向けたデータベースの構築 (水土里情報システムの共有化)

- ・山口県土地改良事業団体連合会が保有する「水土里情報システム」を共有化。
- ・農地や農業用施設に関する各種のデータベースを整備・運用。



Action 2

迅速な情報伝達・リアルタイム共有の仕組みを構築 (スマホ・タブレットを活用したアプリの整備)

- ①点検報告アプリ
農地・農業用施設の点検・維持管理や災害情報、地域の保全活動等の情報伝達・共有。



- ②災害調査アプリ
効率的で着実な被害調査、被害状況の集約。



- ③ため池点検アプリ
防災重点農業用ため池の効率的な点検、管理指導。

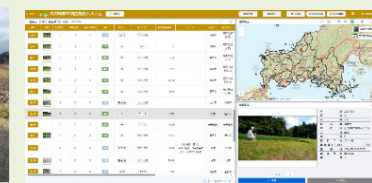


- ④活動日誌作成ツール
日本型直接支払の活動組織への事務支援。



Action 3

システムを活用した各地域での農業農村活動を実施 (災害時の初動体制確保、施設管理者への指導、若年職員育成)



行政のマンパワー不足への対応や農業農村技術者の確保・育成、農村地域が抱える様々な課題解決に向けて「やまぐち発」の農業農村DXの取組を強力に推進。